●グローバル化時代の医療・検査事情 16

雲南の旅　その6
河口・普者黒（フーコゥ・プジャフェイ）_2015年

岩本愛吉（いわもと あいきち）
Aikichi IWAMOTO

I. 石林公園

2015 年 8 月 3 日 15：50 成田発の中国南方航空機で広州に飛び、乗り換えて昆明に到着した。深夜になっていたが、李洪（リ・ホン）雲南 CDC 部長が出迎えてくれた。雲南 CDC に近い威龍（ウェイロン）酒店にチェックインしたのは、日が変わって現地時間の午前 1：10 だった。日本と中国の間には 1 時間の時差があるから、日本時間では午前 2 時を回っていたことになる。

8 月 4 日午前 10：00 にホテルを出発し、石林（シーリン）公園に向かった。今回の一行は李洪さん、中山大学の劉煥亮（リュウ・ファンリャン）教授と筆者の 3 人と少なく、ドライバーは 2014 年に瑞麗（ルイリ）に同行した習（シー）さん、車はトヨタの SUV（Sport Utility Vehicle）で、これまでの雲南の旅で使った中で最も快適な車だった。石林は昆明の中心部から東南約 85km にあり、石林彝族（イヅー）自治県という昆明市の行政区の中にある。彝族の民族衣装を着た案内の若者が、英語で解説してくれた。石林は中国南部に多いカルスト地形の一つだ。まずサンゴのように炭酸カルシウムの殻を持つ生物の死骸が堆積して石灰岩層が形成された。地殻変動によって隆起した石灰岩の割れ目に雨水が流れ込み、浸食を繰り返し巨大な石柱群となったらしい（**写真 1**）[1, 2]。

2007 年にユネスコの世界遺産に登録された石林は雲南でも有数の景勝地で、多数の観光客が訪れていた。英語解説をしてくれた彝族の若者は、石林のあちこちにある小さな池の水を見ながら、「昔はもっと澄んでいた。環境汚染が進んでいる。」と嘆いていた。

図 1　2015 年河口・普者黒への行程

★が宿泊した昆明（8 月 3 日）、弥勒（4 日）、箇旧（5 日）、河口（6 日）、文山（7 日）、普者黒（8 日）、昆明（9 日）。●は経由地。

写真 1　石林にて。英語解説の彝族の若者と筆者

東京大学名誉教授

Ⅱ. 弥勒

昼食にうどんを食べた後、高速道路を南下し、紅河（ホンフー）哈尼族（ハニヅー）彝族（イーヅー）自治州（以下紅河州）弥勒（ミーラー）市に入った。弥勒は標高 1,460m だそうだから、標高 1,800m の昆明からはかなり下ってきたわけだ。これまで訪問した雲南省西南部と比べると、地形はなだらかで小高い丘も頂上まで開発されている。弥勒一帯には広大なブドウ畑が広がり、主にワインとブドウから作る蒸留酒の産地となっている。実際アルコール度 85％（！）の蒸留酒があった。茅台（マオタイ）のように白酒（バイチュー）とは呼ばず、これもワインと言うらしい。われわれもブドウ棚を設えたレストランで、弥勒市 CDC の人達と会食した（**写真 2**）。上からぶら下がったブドウもなかなか美味だった。2014 年に発作性心房細動（PAF）を起こした筆者は、少々嘗める程度で我慢したが、ワインと蒸留ワインもなかなか結構だった[3]。この日は弥勒泊。

8 月 5 日午前中、弥勒市疾病予防中心（弥勒 CDC）を訪問した（**写真 3**）。弥勒市は、2013 年に弥勒県から改称された人口約 50 万の県級市で、中心地（ダウンタウン）に約 7 万人が生活している[4]。以前から李洪さんに、雲南で予防活動に携わる当事者（peer educator）と話をさせて欲しいと頼んであった。それがこの日、陳衛武（Weiwu Chen）所長の計らいにより、弥勒 CDC の面談室で実現した（**写真 4**）。薬物使用者（IDU）に関わる女性 2 人、男性同性愛者（MSM=Men who have Sex with Men）に関わる男性 1 人から話を聞くことが出来た（**写真 4**）。一人の女性の腕には、点々と注射痕らしい痕跡があったが、筆者の考えすぎか。

弥勒市では、注射で薬物を使う人はヘロイン、吸入する人は覚醒剤や新規薬物（日本でいう違法脱法ドラッグのような薬物か）を使う傾向にある。吸入用の薬物は 1 回分約 30-40 中国元（1 元＝17 円として 510-680 円）だという。常習者は 1 日 10 回位使うので結構高価だが（5,100-6,800 円/日）、若者の間で増加しており、カラオケなどの娯楽場でよく用いられている。新しい違法脱法薬物は幻覚症状を起こしやすく、使用者には異常行動が多い。

弥勒 CDC では、静注薬のヘロインの代替療法として約 100 人が注射針と注射筒の交換やメサドン（美沙酮）のサービスを受けている[5]。10 年前には 800-1,000 人がカバーされていたので、IDU は減っているという。1 日 8 人くらい携帯電話で接触して

写真 3　弥勒 CDC 入り口にて。劉煥亮教授（左）、陳衛武所長（中）、李洪部長（右）

写真 2　ブドウ棚の下での会食

写真 4　Peer educator と面談する李洪部長と筆者（弥勒 CDC）

くるIDUがおり、彼らに新しい注射針と注射筒を配る。2004年にIDUの間でHIV感染者が集団発生した台湾では、薬を溶く水も共有されたため、同時に清潔な水も渡しているが、弥勒CDCでは水は渡していない。新しい注射針と注射筒を使用後のものと交換し、新しいものだけ使うよう指導しているという。交換する際は、コンドーム（女性にも男性用）も一緒に配布している。今回のpeer educatorは2人とも女性だったが、IDUの方は女性も男性も接触してくる。メサドンは1日5中国元で（1元＝17円として85円）、1日約70人がメサドンを求めて弥勒CDCに来る（**写真5**）。政府からの対策費が激減しているのが大問題で、2013年には1年あたり13,000中国元（1元＝17円として221,000円）だけだとのことだった。メサドンの費用だけなのかどうかは定かでなかったが、対策費用が大幅に削減されているのは確かなようだ。

MSM担当のpeer educatorは約100人のクライアントを持ち、6年ほど前から地域でコンドームや予防啓発冊子などを配っている。18-24歳くらいの若いMSMは受検行動に導きやすいが、男性間の性行動についてはまだまだオープンに語ることが難しく、雲南ではMSM自体が接触しにくい（difficult to reach）集団であるという。若いMSMは大都市昆明で感染し、その後地元に戻ってくる例が多い。東洋一のゲイタウン「新宿2丁目」を知っているかと聞いてみたが、知らなかった。

弥勒というと、広隆寺や中宮寺に納められている国宝「弥勒菩薩半跏思惟像」を思い浮かべる人が多いだろう[6]。痩身の美女である。ところが中国の弥勒は、ツルッパゲで太鼓腹、要するに布袋さんなのである。中国の人に弥勒を知っているかと聞けば、まず「ハッピー・ブッダのことだ」と応えるだろう。「先生、あんたが弥勒だ」と言われたことすらある。つまり、思い浮かべているのは布袋さんの方だ。この差は如何？と思うが、よくわからない。ウィキペディアで弥勒を調べると、(1) 3-4世紀頃のインドの仏教僧、(2) 仏教における弥勒菩薩、(3) 雲南省の弥勒市などが挙げられている[7]。中国では(1)に、日本では(2)に沿ってイメージが作られていったのかもしれない。弥勒CDCを出て南下する途中、右手の小高い丘の上には金色の巨大な弥勒（布袋さん）が座していた。写真を撮ったが望遠が足りず、丘の上に小さな金ぴかの禿げ頭が写っただけで、掲載出来る画像にはならなかった。

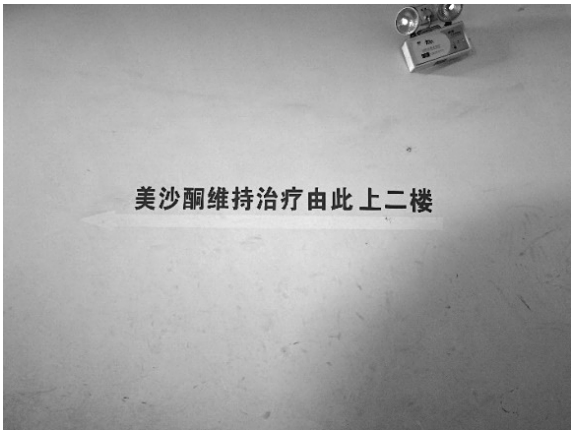

写真5「メサドン（美沙酮）維持療法はここから2階へ」との表示（弥勒CDC）

Ⅲ. 可邑小鎮

中国の人口は13.8億人で（2016年）、92％（12.7億人）を占める漢民族が圧倒的多数だ[8]。8％（1.1億人）が55の少数民族に属し、壮族（チワン族）、満州族、回族などは、1,000万人以上の人口を持つ[9]。20以上の少数民族が住む雲南で最も多い“少数民族”は彝族で、約400万人が雲南各地に住む（**表1**）[10]。陳所長の案内で、彝族の一支系である阿細（アシ）族の村、可邑（クーイー）小鎮を訪問した（**写真6**）。可邑は、阿細族の言葉を漢字音訳した地名で「吉祥の地」を意味する。黄土色で統一された民家の間を散策し、可邑彝族博物館で民族衣装や多少の歴史を学んだ（**写真7**）。昼食後、小鎮に一つしかない診療所を訪問し、勤務医と面談した。診療所にはほとんど医療機器はなく、医薬品もわずかで医師も一人

写真6　可邑小鎮への入り口

表 1 雲南省に住む少数民族とその人口。集計が古く、データ源により数値も異なるなどの問題があり、人口数値はあくまで参考値。

	中国語名	日本語名	人口		「雲南の旅」での引用	引用元
			雲南	中国全体		
1	彝族	イ族	400万人	900万人	雲南の旅 その6 河口・普者黒_2015年	http://www.unnantour.com/minzokusyasin/izoku.htm
2	白族	ペー族	155万	190万人	雲南の旅 その2 香格里拉_2010年	杜国慶文献
3	哈尼族	ハニ族	140万人	144万人	雲南の旅 その6 河口・普者黒_2015年	https://ja.wikipedia.org/wiki/ハニ族
4	壮族	チワン族	114万人	1,900万人	雲南の旅 その3 西双版納_2012年	https://ja.wikipedia.org/wiki/チワン族
5	苗族	ミャオ族	104万人	900万人	雲南の旅 その6 河口・普者黒_2015年	https://ja.wikipedia.org/wiki/ミャオ族
6	傣族	ダイ族	101万人	102万人	雲南の旅 その3 西双版納_2012年	http://www.unnantour.com/minzokusyasin/taizoku.htm
7	傈僳族	リス族	61万人	63万人	雲南の旅 その2 香格里拉_2010年	https://ja.wikipedia.org/wiki/リス族
8	拉祜族	ラフ族	45万人	72万人	雲南の旅 その5 滄源_2014年	https://ja.wikipedia.org/wiki/ラフ族
9	佤族	ゥワ族	35万人	40万人	雲南の旅 その5 滄源_2014年	https://ja.wikipedia.org/wiki/ワ族
10	納西族	ナシ族	30万人	31万人	雲南の旅 その2 香格里拉_2010年	https://ja.wikipedia.org/wiki/ナシ族
11	瑶族	ヤオ族	17万人	310万人	雲南の旅 その6 河口・普者黒_2015年	http://www.unnantour.com/minzokusyasin/yaozoku.htm
12	藏族	チベット族	13万人	540万	雲南の旅 その2 香格里拉_2010年	https://ja.wikipedia.org/wiki/チベット民族
13	景頗族	ジンポー族	13万人	15万人	雲南の旅 その4 瑞麗_2013年	https://ja.wikipedia.org/wiki/チンポー族
14	布朗族	ブラン族	9万人	9万人	雲南の旅 その3 西双版納_2012年	http://japanese.china.org.cn/ri-shaoshu/4.htm
15	布依族	プイ族	3.4万	291万		https://ja.wikipedia.org/wiki/プイ族
16	阿昌族	アチャン族	3万人	3万人		https://ja.wikipedia.org/wiki/アチャン族
17	普米族	プミ族	3万人	3万人		https://ja.wikipedia.org/wiki/プミ族
18	怒族	ヌー族	2.8万	2.8万		https://ja.wikipedia.org/wiki/ヌー族
19	水族	スイ族	2	40万		https://ja.wikipedia.org/wiki/スイ族
20	基诺族	ジノー族	2.1万	2.3万		http://www7a.biglobe.ne.jp/~chinaphot/minzoku/kakuminzoku/jino/jinoindex.html
21	德昂族	ドアン族	1.8万	1.8万		https://ja.wikipedia.org/wiki/トーアン族
22	独龍族	ドゥーロン族	0.7万	0.7万	雲南の旅 その8 独龍_2017年（予定）	https://ja.wikipedia.org/wiki/トーロン族
23	満州族	マンジュ族	0.7万	1,070万		https://ja.wikipedia.org/wiki/満州民族
24	回族	回族	各地散在	1,000万人		https://ja.wikipedia.org/wiki/回族

写真 7 可邑彝族博物館に展示された男女一対の民族衣装

写真 8 ホテルから見た箇旧市街

だ。経済発展したとはいえ、人口過疎農村の医療環境は今も厳しい。

可邑小鎮を散策した後、高速道路に乗って箇旧（クーチョウ）市まで南下した。山間部の池に遊歩道を整備し、そのまわりに高層アパートなどが建ち並んでいた（**写真 8**）。もともと池はあったのかもしれないが、かなり手を加えて市街地を作った印象だ。地域 CDC のスタッフが、湖畔のレストランに集まり大宴会をやっていた。2 つの部屋に別れていたが、李洪さんの顔で少人数のグループに紛れ込んで、夕食をご馳走になった。夕食後、遊歩道を歩いて湖畔の十号雲楼賓館（No10 Guest Hotel）に宿泊した。

Ⅳ. 河口

8 月 6 日午前 8：00 に集合し、箇旧から元陽（ユェンヤン）へ向かった。元陽には紅河哈尼（ハニ）族棚田がある。毎日のように霧が出るが、朝のうちな

写真 9　紅河哈尼棚田

写真 11　紅河越しに見るベトナム

写真 10　紅河。名のごとく赤土を含んで川が紅い。

写真 12　ベトナム国境の碑と李洪さん（左）、劉さん。李洪さんの左後方に国境の橋が見える。

ら運が良ければ棚田を見られるかもしれないという。哈尼族の人達が、8 世紀頃から約 1300 年かけて築きあげた世界最大の棚田群だ（**写真 9**）[11]。2013 年に世界遺産（文化遺産）に登録されている。

元陽 CDC 所長と昼食を取りながら情報交換した。元陽の人口は約 50 万人で、紅河州では弥勒、2012 年に訪問した建水についで大きい[12]。これまでに報告された HIV 陽性者は 1,800 人で、ほとんどが異性間性行為による感染とのことだった。IDU は 1 名だけで、MSM もまだ少ない。昆明など、地域外の大きな都市に出て行って感染して戻ってくるパターンが多いという。

棚田を見たあとは、紅河に沿って「国境の町」河口（フーコゥ）に向かった。この辺りの土壌は赤土で、赤土の溶け込んだ紅河はまさに“紅い河”だ（**写真 10**）。河口に近づくと、紅河自体がベトナムとの国境になっている。川向こうはベトナムである（**写真 11**）。中国とベトナムは 1979 年に交戦しており（中越戦争）、暴発しないためにどちらの国も国境から少し離して軍を配置している。そのためか、国境あたりを見ても兵士の姿はなかった（**写真 12**）。中国、ベトナムともに経済成長しており、国境を挟んだ経済活動が盛んである。性産業も活発になり、国境周辺では HIV 感染も多い。金亭商務大酒店（Jin Di Commercial Hotel）に泊まった。

V. 文山壮族苗族自治州

8 月 7 日午前 6：45 起床。短い不整脈が時々出ていた。抗不整脈薬と抗凝固薬を開始した。河口を出て、車は文山（ウェンシャン）壮族（チアンヅゥー）苗族（ミャオヅゥー）自治州に入った。急峻ではないが、くねくねと曲がった山道を数時間走った。山の多い雲南だが、街に近づく時は街灯の並んだ広い道路から入っていくことが多い。しかし、文山壮族苗族自治州の州都である文山市は、山の中から突然

写真 13　中央が文山 CDC の張所長、
向かって右端が岳副所長。

現れた。370 万の文山州住民のうち、約 40 万人が文山市で暮らす。市内のレストランで、文山壮族苗族自治州疾病預防控制中心（文山 CDC）の張（ジャン）所長、岳（ユエ）副所長、徐（シュイー）さんたち、12 人で食卓を囲んだ（**写真 13**）。この日は、発作性心房細動（PAF）再発の可能性が高く、アルコールは御法度だった。中国で初対面の人達多数と食卓を囲んで、アルコール無しで済ますのは至難の業である。食事が始まってすぐから勧められるが、最初のうちは李洪さんと劉さんが、「先生は今アルコールが飲めない」と断ってくれていたが、そのうちに酔ってくると「俺の酒が飲めないのか」という雰囲気になり、はなはだ気まずかった。しかし、何とかこの日はアルコール抜きで乗り切って、天怡（ティエニィー）酒店に宿泊した。

Ⅵ. 普者黒

8 月 8 日午前 7 : 30、ホテルを出発して、近所のレストランでうどんを食べた。徐さんの案内で文山 CDC を見学した後（**写真 14**）、兵北県（ビンベイシエン）の普者黒（プジャフェイ）に向かった。息子と甥を連れた徐さんも、自分の車で同行した。「普者黒」は彝族語を漢字音訳した地名で、漢字そのものに意味はない。カルスト地形で、多数の湖沼と低い山が美しい景観を呈している（**写真 15**）。普者黒に近づくと、たいへんな渋滞に巻き込まれた。この日はちょうど彝族の火祭りで、大勢の彝族が普者黒に集まってくるのだという。路肩を歩く家族連れは、なぜかプラスチック製のバケツや筒の長い水鉄砲を持っていた。駐車場に車を止め、湖畔に行くと、多数のボートが待っていた（**写真 16**）。李洪さんが切符を買い、救命胴衣をつけてボートに乗った。われわれのボートにもプラスチック製の小さなバケツがあった。バケツや水鉄砲の意味は乗船してすぐに分かった。仲間内であろうと知らなかろうと、至近距離に来る相手を水浸しにするよう夢中になるのだ。湖の広いところではわざと知らんぷりしており、細くなったところで逆方向からのボートに出会うと、無我夢中で一斉攻撃を行う（**写真 17**）。筆者も救命胴衣と合羽を着ていたが、シャツや半ズボン、財布

写真 15　蓮の群生する湖と山が織成す普者黒の風景。

写真 14　文山 CDC 正面にて徐さんと。

写真 16　救命胴衣をつけ、
漕ぎ手つきのボートで湖に出陣。

写真 17　こちらからの水攻撃を堪えながら、反撃のチャンスを窺う徐さん親子。

写真 18　屋台で魚や貝を見繕う李洪さんと徐さん。

写真 19　屋台の魚、貝、ザリガニ（3 点セット）。

の中の札までずぶ濡れになった。しかし、不思議と心が晴れ晴れするものだ。ちょうどこの頃は日中関係が悪かったから、「日中の政治家の間でもこんな水掛けレースをやればいいのに！」と率直に思った。

ボートを下りると、そこには多数の屋台が並んでいた。フナ、ハゼ、ドジョウ、雷魚、タニシ、ザリガニ、カニなど、様々な淡水生物を大小のボール容器やバケツに入れて陳列されている（**写真 18, 19**）。客は自分の好みで選んで、そばに置かれたテーブルの上で、煮たり焼いたりして食する。淡水の魚貝類には寄生虫が多いから、よく加熱しなくっちゃ。昼食後、近隣の村まで車で走り、民宿ふうのホテルにチェックインした。シャワーは完備されており、水掛けで浴びた汚れを落とすことができた。

Ⅶ. 彝族の火祭り

村の中にたくさんの車が入ってくる。渝（ユー：重慶市の識別記号）、川（チュアン：四川省の識別記号）を中心に、各地のナンバープレートをつけた車が走っている。人口の多い彝族があちこちから集まってきているようだ。駐車場に入れないとの徐さんのアドバイスで、馬車で火祭りの会場へと向かった。広場には簡易ステージが設置され、民族衣装に身を包んだ人達が次々と壇上に上がり、歌や踊りを披露した（**写真 20**）。広場のあちこちでは、人々は点火された松明の周囲に集まってダンスに興じていた（**写真 21**）。人々は天灯（ランタン）に点灯し、空に向かってあげていた（**写真 22**）。空には多数の天灯が舞い上がっていった（**写真 23**）。祭りがピークに達する頃には、夥しい数の人達が広場に集まっていた。ここはディープ雲南だ、日本人は自分だけだろうな、と感じていた。帰る人達が増える前に馬車を拾おうと、出口に向かった。まだまだ広場に来る人達も多かったが、既に帰路につく人もいた。李洪

写真 20　民族衣装姿で踊りを披露する人達。

写真 21　松明の周りで輪になって踊る人達。

写真 22　天灯に点火し、空に離す人達。

写真 23　空にあがる多数の天灯。

さんがどうにか馬車を見つけて、若いカップルと相乗りで馬車に乗った。しばらく乗っていると、驚いたことに後ろのカップルが日本語で話しているではないか。「日本の方ですか？」と聞いたところ、彝族の学生で、一時帰国して火祭りに来たとのことだった。やっぱり、日本人は自分一人に間違いなさそうだ。

写真 24　中山大学第 6 病院研究棟で
劉煥亮教授グループとディスカッション。

写真 25　汪建平前中山大学副学長・
第 6 病院院長と面談。

8 月 9 日、兵北県のダウンタウンでうどんの朝食を済ませ、硯山まで戻って高速道路に乗った。この日は約 300km 走って昆明に戻り、タイレストランで雲南 CDC の莫（モー）さん、高（ガオ）さんと夕食を食べた。雲南 CDC そばの威龍酒店（ウェイロン・ホテル）泊。今回の全走行距離は、約 1,600km だった。

8 月 10 日、劉さんと広州に飛び、中山大学の劉さんのグループとディスカッションした。汪建平前中山大学副学長とも面談し、8 月 13 日に帰国した（**写真 24, 25**）。

文　献

1）大自然の創造したカルスト地形雲南省・石林。ウィキペディア。2018年10月14日閲覧。
http://www.peoplechina.com.cn/home/second/2008-10/

24/content_158703.htm
2）カルスト地形。ウィキペディア。2018年10月14日閲覧。
https://ja.wikipedia.org/wiki/カルスト地形。
3）岩本愛吉。「グローバル化時代の医療・検査事情9　酒と心房細動」。モダンメディア 62(12): 11-16, 2016。
4）岩本愛吉。「グローバル化時代の医療・検査事情10　雲南の旅 その1　なぜ雲南か？」。モダンメディア 63(2): 22-25, 2017。
5）メサドン。ウィキペディア。2018年10月14日閲覧。
https://ja.wikipedia.org/wiki/メサドン
6）弥勒菩薩半跏思惟像。ウィキペディア。2018年10月14日閲覧。
https://ja.wikipedia.org/wiki/弥勒菩薩半跏思惟像。
7）弥勒(曖昧さ回避)。ウィキペディア。2018年10月14日閲覧。
https://ja.wikipedia.org/wiki/弥勒_(曖昧さ回避)
8）中国の少数民族。2018年10月14日閲覧。
https://ja.wikipedia.org/wiki/中国の少数民族。
9）中国の少数民族人口。2018年10月14日閲覧。
https://honkawa2.sakura.ne.jp/8230.html。
10）杜国慶。中国雲南省における少数民族の分布について。立教大学観光学部紀要 14(3): 74-82, 2012。AA11362100_14_07。
11）紅河ハニ棚田。ウィキペディア。2018年10月14日閲覧。
https://ja.wikipedia.org/wiki/紅河ハニ棚田。
12）岩本愛吉。「グローバル化時代の医療・検査事情12　雲南の旅 その3 西双版納_2012年」。モダンメディア 63(6): 13-18, 2017。